

1 学校教育目標	『知・徳・体の調和のとれた将来有為な人材の育成』
2 現状の分析	○ 生活や学習等の取り組みに改善が見られつつある。 ○ あいさつをしたり、時間を守ったりできる生徒が増えてきた。 ● 基礎学力が定着していない生徒がおり、義務教育段階の学習内容の復習を指導する必要がある。 ● 基本的な生活習慣や規範意識が十分に確立していない生徒がいる。 ● 進路意識が希薄で、自分自身の良さや課題を客観的に捉えることや社会に出て働くための人間関係づくりが苦手な生徒がいる。
3 学校の抱える課題	①基礎学力の定着 ②基本的な生活習慣の確立 ③進路意識の高揚とコミュニケーション能力の育成
4 今年度の具体的な重点目標	①学習指導・教科指導の充実 ②生活指導・特別活動指導の充実 ③キャリア教育の充実とコミュニケーション能力の育成

年 度 目 標			年 度 末 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判断基準	8 取組状況・実践内容評価項目 の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合評価	
学習指導・教科指導の充実	① 「評価の可視化」と「加点法」を使い「授業のユニバーサルデザイン化」によって、どの生徒にもわかる授業。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒) 67%	B	○ 意欲的に授業に取り組む生徒が増え、聞く姿勢や授業規律の確立にもつながった。(ルールの徹底) ▲ 今後も生徒の希望等を取り入れ、多様な学習支援の方法を研究する。(IT等の活用を含めて)	B	
	② 「工業類型」「地域づくり類型」を他と連携して進めます。	授業の開設および実施	他校および地元と連携して授業を実施した。100%	A			
	③ 外国人生徒に対し「取り出し指導」、「入り込み指導」を行い、学習支援をします。(各学年国際クラスの編成)	日本語能力を測る検定試験(各個人が前年より上級習得)	日本語能力試験合格率85% 漢字検定6~4級8名合格	A			
生活指導・特別活動指導の充実	① 基本的な生活習慣(あいさつ・時間を守る・身なり)を身につけさせるために、毎朝の校門指導を実施する。	生活状況調査「あいさつ、遅刻」の項目で確認(70%以上)	生活状況調査 78%	A	○ あいさつをする生徒や授業に遅れないよう努力する生徒、ボランティア活動に参加する生徒が増えている。 ▲ 遅刻数をさらに減らしたい。 ▲ 根気強い指導を継続する。		
	② 全職員共通理解の下、一丸となって、「見逃さない、誰もが同じ指導」を目指します。	校門指導を行う保護者への聴取	肯定的評価 81%	A			
	③ 部活動・ボランティア活動を活性化し、活気と思いやりの心を育てる。	ボランティア参加延べ生徒数(300人以上)	参加延べ人数を上回る生徒が参加した。	B			
キャリア教育の充実とコミュニケーション能力の育成	① 進路ガイダンス等により進路目標を具体化し、望ましい勤労観・職業観を育成します。	学校評価アンケートで確認(70%以上)	学校評価(生徒・保護者) 77%	B	○ 進路意識を持つ生徒が少しずつ増えてきている。 ○ 演劇表現ワークショップで見せる生徒の姿が活動的になった。 ▲ 更なる外部人材の活用を企画する。		
	② 地域との連携による外部人材の活用により、進路目標実現に向けてのスキルの習得を促す。	活用回数(5回)	活用回数 12回	A			
	③ 演劇表現ワークショップ等により、コミュニケーション能力を育成し望ましい人間関係を構築する。	講師及び見学者への聴取	4月実施は仲間づくり、所属感を高めるのに有効	A			

II 学校関係者評価

実施年月日 平成 29 年 2 月 6 日

1 柔軟に対応できる体制を学校がとっているため、学校の変化が早い。地域の方と一緒に東濃高校のことを考えていただけるのはありがたい。	12 来年度に向けての改善方策案
2 キャリア教育プログラムの報告会での生徒の姿から、聴こうとする姿勢がとても良かった。御嵩町が主催する夏祭りなどのイベントで、もっと東濃高校をアピールするといい。地域に愛される学校となしてほしい。	1 生徒のコミュニケーション能力の育成に関わり、キャリア教育プログラムのプレゼンテーションの指導に加え、2年次、3年次の授業にグループ発表を導入する努力をする。
3 互いに共感できる生徒が増えた。心を耕す指導を心がけてほしい。全体に情緒の安定が見られる。この報告会はぜひ保護者に見てほしい。そういう機会をつくって下さい。	2 「あじみができる東濃高校」(あいさつの励行、時間を守る、身なりを正すこと)をさらに重点とし、平成 29 年度も基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を目指す。
	3 外国人生徒の英語力の外部への発信、発達障がいや有する生徒等の指導を充実させるために外国人生徒連絡会で定期的に情報交換を行い、指導の指針とする。